

令和7年度第2回 京都府寄附控除対象特定非営利活動審査委員会議事録
令和7年度第2回 京都市控除対象特定非営利活動法人審査委員会議事録

1 日時 令和8年3月24日（火）午前10時から午前10時40分まで

2 場所 京都市役所分庁舎地下一階 会議室（オンライン併用）
（京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488）

3 出席者

（1）委員（五十音順）

赤澤委員【委員長】、木村委員、柴田委員、高山委員、永井委員

（2）事務局等

（京都府）文化生活総務課 萬谷参事、担当職員

（京都市）地域自治推進室 馬場地域コミュニティ・北部山間振興担当部長、
小林市民協働・市民活動支援課長、西村市民協働・市民活動支援係長、
担当職員

4 議題

（1）条例指定NPO法人の外部評価結果について

（2）京都府及び京都市の条例指定の状況等について

5 公開・非公開の別 公開

6 議事の概要

（1）条例指定NPO法人の外部評価結果について

古材文化の会の外部評価結果について、資料「条例指定法人から提出された外部評価結果」に基づき事務局から説明した。

【主な質疑応答】

（永井委員） いろいろと努力されていることが分かる。

（木村委員） 改善したいと言われていたことが改善されており、理想的である。

（柴田委員） ホームページやSNSも積極的に更新されている。

（赤澤委員長） 拠点を確保し、行動的なスタッフもおり、活動が安定しているように思われる。

（柴田委員） 外部評価者のコメントで、活動が広がることによって団体の本来の活動主旨から乖離していくことが懸念されるとあるが、具体的にどのようなことを懸念されているのか。

(事務局) 活動に関わる人が増えれば増えるほど、その活動内容が本来の主旨からずれるというのは、起こりがちなことであるので、全般的な話かと思う。「山科区2万人まち美化作戦」での清掃への参加など、地元との繋がりが増えている。

(柴田委員) 前回の審査委員会でも地元との繋がりを増やしていけたらという話があったので、それが実現できているのは、大変いい流れである。

(赤澤委員長) 法人のフェイスブックを見ると、活動をスタートしてから30年経ち、行政や民間からの委託も増えているが、活動が多様になることで、組織の分かりにくさを生むこともあるのではないかと、各会員に設立当初の目的に立ち返り活動について考えていただきたいとある。組織としていろいろと考えられているようであり、健全である。

(事務局) 外部評価で、組織運営・財政運営の基本方針に触れられているが、現在新しい活動方針を検討中で、令和8年度の総会で策定予定と聞いている。

(赤澤委員長) ちょうど30年経って、次の10年をどうするかということで、基本計画の検討をしっかりとやっていく時期かと思われる。これまでのことを振り返りながら、新しいことも考えて、今後も活動を発展させていただきたい。

(木村委員) 活動報告の中で、「生け花」や「まち歩き」があるが、グループに分かれて活動されているということか。

(事務局) 企画部会、利用相談部会、見守る部会、ヘリテージマネージャーサポート部会など、各部会で活動を実施されている。

(赤澤委員長) よくあることではあるが、部会ごとに活動をしていると、法人の全体像を把握し、関心を持つ人が減ってしまう傾向はある。それぞれの部門でそれぞれが活動し、違和感を覚える機会が増えていることもあり、基本方針を改めて検討することにされているのかと思う。

(柴田委員) 事務局から報告のあった、持続可能な社会づくりに関心のある中学生が法人の活動に参加しているというのは、興味深く、評価できる。最近では、部活動の地域展開の話もあるので、文化や伝統に興味のある地域の中高生を法人の活動に巻き込んでいけたらよいのではないかと。

(赤澤委員長) 小学生や中学生が保護者と参加することがあれば、保護者も若い世代

に入ってくると思われるので、これからも地域の方とのつながりを大事に
していただけたらと思う。

(2) 京都府及び京都市の条例指定の状況等について

京都府又は京都市が条例指定した法人について、資料「京都府及び京都市の条例指定の状況」及び「条例指定NPO法人の寄附金の状況」に基づき事務局から説明を行った。

(永井委員) 条例指定の法人を増やすPRはされているのか。

(事務局) 認定を希望しているが、絶対値や相対値でのPST基準での認定が難しい場合などに、条例指定の制度の案内をしている。

(赤澤委員長) 団体から見れば、どの制度を選んだらよいのかというのがあると思うので、ガイドラインのようなものを作成して、これから寄附を集めようと考えている団体などに案内ができれば、もっと活用が増えるのではないか。

昨年始まったふるさと納税でNPOを応援する事業(「ふるさと×NPO 京どねーしょん(京都府ふるさと応援府民協働推進事業)」)はどのような結果になっているのか。

(事務局) 昨年9月に開始した事業で、寄附は年末に集中するので、1月以降は大きな動きはないが、現時点で、寄附対象として登録している10団体に対し、総額1,600万円程度の寄附が集まっている。課題としては、法人によって寄附額に差がついているところであり、京都府としては今後どのようにフォローしていくかが課題だと思っている。

認定法人を増やせないかという話に関連するが、この制度のために認定を目指している法人や認定に興味を持つようになった法人が出てきており、認定法人の増加へ一定つながっているのではないかと考えている。

(赤澤委員長) 規模の拡大を検討されている法人など、そのような制度への関心がきっかけとなって、認定を目指すのはよいことである。行政としては、必要などころへ必要な情報が届くようにうまく連携していただけたらと思う。